国語科学習指導案

岸和田市立城内小学校

指導者　教諭

学校栄養職員

1.日時 令和5年10月24日（火）第3時限

2.場所 東校舎2階　第4学年３組教室

3.学年・組 第4学年3組（37名）

4．単元名 　くらしの中の「和」と「洋」について調べよう

5．教材名 　くらしの中の和と洋（説明文）（東京書籍　新しい国語四下）

6．単元目標

　　何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、調べたことをまとめることができる。

　　（１）比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を

理解し使うことができる。

〔知識及び技能〕**（２）イ**

　　（２）「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕**C（１）ウ**

（３）「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがある

ことに気づくことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕**C（１）カ**

　　（４）「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に

注意したりして、文章の構成を考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕**B（１）イ**

　　（５）「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕**A（１）エ**

　　（６）言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

　　　　　　〔学びに向かう力、人間性等〕

7．教材の取り扱い

（１）教材観

　　　　　　本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比させ、分かりやすく

説明したものである。和室と洋室の対比構造を読みとったり、指示語や接続語に着目することで段落相互の関係を捉えたりするのに適している。

（２）児童観

※個人情報のため削除

（３）指導観

本教材は、文章から何をどのように比べているのかを読み取り、その比較の仕方を意識して、自分の

調べたことと関係付けてまとめることをねらいとしている。そのためにまず、教材文を要約する活動を取り入れたい。段落ごとの内容を押さえるとともに、段落どうしがどのように結びついているのか、「始め・中・終わり」の構成や、「和室」と「洋室」の違いについて比較していることを読み取らせる。要約する際には、中心となる語や文を見つける活動を行い、要点をつかむ手立てとしたい。教材文が「和室」と「洋室」を「比較」することによって、違いを発見し、それぞれの良さについて述べられていることに気付かせたい。

次に、暮らしの中にどのような「和」と「洋」があるのかをグループで話し合わせる活動を行う。

グループで話し合わせることで、児童の考えを広げ、紹介文を書くときに必要な違いや観点を見つけることができると考える。

最後に、自分が選んだ「和」と「洋」について、本やインターネット、インタビューなどを通して調べ、比べる観点を明確にして、紹介文を書かせる活動を行う。紹介文を書かせる活動では、個人で考えたことをグループで互いに読み合い、話し合う活動を通して、情報が整理されているか、「違い」「観点」「それぞれの良さ」の事例のつながりが適切かどうか助言させる。グループで活動することで、学びが深まり、児童観で述べた課題を解決できると考える。

また、本教材を食育について触れる機会としたい。学校栄養職員の指導のもと、クラスのみんなが平等に体

験している給食について取り上げ、食の分野に注目できるようにしたい。「それぞれの国にあった自然由来の食材」や、「料理の種類の多さ」「健康との関係」「食べることが心を豊かにする」ということなどの、和食や洋食の良さに気付かせるために、「和食のだし」「洋食のだし」や「削り節・だし昆布・煮干し」「がら・セロリ・ローリエ」の実物を見せたり、給食調理員が「和食のだし」「洋食のだし」をとっている写真を提示したりしたい。給食調理員の写真を出すことにより、食文化・食料の生産等に携わる人々の思いや願いに触れ、感謝する心を育み、残さず食べるなどの食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養うことにもつなげたい。さらに、これらの正しい知識や情報によって、食生活や食の選択について、自ら管理したり、判断したりできる能力を養うことにつなげたい。

8．食育の視点

・地域の伝統や気候風土と深く結びつき、先人によって培われてきた多様な食文化があることを知る。（食文化）

食に関する指導の目標

　　・食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能

を身に付けるようにする。 （知識・技能）

・食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。

（思考力・判断力・表現力等）

・主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する

心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。 （学びに向かう力・人間性等）

9．単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 比較や分類の仕方、必要な語句   などの書き留め方、引用の仕方や  出典の示し方、辞書や事典の使い  方を理解し使っている。  **（２）イ** | ①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。　　　　 **Ｂ（１）イ**  ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。  **C（１）ウ**  ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。  **Ｃ（１）カ**  ④「聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。  **A（１）エ** | 1. これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、粘り強く目的を意識して文章を要約し、紹介文を書こうとしている。 |

10．単元の指導と評価の計画（全１４時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 評価規準・評価方法 |
| 1 | ・学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。 |  |
| 2～５ | ・「くらしの中の和と洋」を読む。  ・段落ごとの内容を確かめ、文章の構成を捉える。  ・「和室」と「洋室」の良さをどのような観点から比べているのか、また、その観点に沿って、どのような事例が挙げられているのかを読み取る。 | 〔知・技①〕  〔思・判・表②〕 |
| 6 | ・暮らしの中にどのような「和」と「洋」があるかを考える。 |  |
| ７  本時 | ・整理メモを作ることを通して、給食の「和」と「洋」についての共通点や相違点などに着目して比較、整理する。 | 〔思・判・表④〕 |
| 8～１２ | ・暮らしの中にはどのような「和」と「洋」があるかを考え、自分  の課題を決める。  ・自分の課題について調べ、紹介文を書く。  ・比べる観点をもって、本や資料を読んで調べ、必要な情報を集め、整理する。  ・紹介文の文章構成を確認し、調べた内容を文章にまとめる。 | 〔知・技①〕  〔思・判・表①〕  〔主①〕 |
| １３ | ・完成した紹介文を読み合い、感想を伝え合う。  ・どんなことをどんな観点で比べて、どのような事例を挙げているのかに注目し、感想を伝え合う。 | 〔思・判・表➂〕 |
| １４ | ・言葉の力を確かめ、単元の学習を振り返る。  ・調べたことをまとめて紹介するために気をつけたことや学んだことを振り返る。 |  |

11．本時について

（１）本時の目標

　　　　　　整理メモを作ることを通して、給食の「和」と「洋」についての共通点や相違点などに着目して比較・

整理することができる。

　　　　本時のめあて

整理メモをまとめながら、同じ所やちがう所に注目しよう。

（２）評価の判断基準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| A（十分満足できる状況） | B（おおむね満足できる状況） | C（努力を要する状況） |
| 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。さらに、次時の学習に向けて、ほかの事例に関しても興味関心をもつことができている。 | 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 | 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもてない。 |

（３）学習過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 主な発問と予想  される児童の反応 | 指導上の留意点 | 評価規準  評価方法 |
| 5分  **整理メモをまとめながら、同じ所やちがう所に注目しよう。** | 本時のめあてを確かめる。 | 整理メモをまとめながら、同じ所や違うところに注目しよう。（T1） | 本時の流れとめあてを確認させる。 |  |
| 35分 | 和食と洋食の共通点や相違点などに着目し、情報を整理する。  ・３つの観点について話を  聞き、メモを取る。   1. 調理の仕方 2. 味覚 3. 料理の種類 | 整理メモの虫食いをうめていこう。  給食の先生に聞いて完成させよう。（T1）  最も大きな違いはだしの材料  ・材料に応じた「調理の仕方」の違いについて  ・「味覚」の違いについて  ・「料理の種類」について　（T2） | ワークシートを用意し、自力解決できるようにする。  穴埋めにすることで自分の考えを発言しやすくする。  情報を伝えることで、子どもが興味をもって整理メモを作れるようにする。  「和食のだし」「洋食のだし」材料の実物提示  写真の提示 | 〔思・判・表④〕  ・ワークシートの記述 |
| 5分 | 本時の学習を振り返る。 | 「同じ所」や「違う所」を比較してみて、分かったことや考えたことなどを振り返ろう　　　　　　　　　（T1） | 本時の学習を振り返りやすいように振り返りシートを用意する。 |  |